



No. 23号

発行 茅部郡鹿部村

村長 棟方健太郎

編集企画室

44. 1. 21

印刷 三栄印刷所



みなさまおめでとうございます

新年号

- ◎ 昭和44年の新春を迎える心も新らな決意をもって新年を
度いと思います。
- ◎ 白雪に彩られた駒ヶ岳のふもと寒さもものかわ若き青年
の強い信念と愛村の精神は必ずや将来の鹿部村のない
手となることでしょう。
- ◎ 先人の基かれし苦難と努力を受けつぎさらに日夜研鑽、
鍛磨し立派な社会人となれるよう心から希ってやみま
せん。
- ◎ 私達は新年を迎えるに当り青年諸君がそれぞれの道に努
力を積み重ね如何なる重責をも堂々と果し得る無限の底
力と覚悟を養われ健全な体を養成せられんことを希望し
て止みません私達はこれらのこととを含め成人式おめでと
うと申上げます。

年頭にあたつて

北海道知事 町村金五

道民の皆様明けましておめでとうございます。

希望に輝く昭和四十四年の新春を皆様とともに迎えることが出来ますことは、まことに喜びにたえないところであります。

昨年の本道は、天候もおおむね順調であり、農業は二年連続の豊作に恵まれ、産業・経済は概して好調のうちに推移することが出来ましたことは、まことに同慶にたえません。

しかししながら、十勝沖地震をはじめ、炭鉱災害などが発生し、多くの方が被災されましたことは、遺憾にたえないところであります。

さて、昨年は、北海道百年記念祝典に天皇・皇后両陛下をお迎えし、道民は本道の一層の躍進をはかるため決意を新たにしたところであります。また、本年は、輝く未来の創造に向かってたくましく前進する年であると存じます。



近年、本道の産業は着実に発展をとげ、道民生活も年とともに向上してまいりましたのであります。

ですが、一面、物価の上昇・交通

えてこれら課題の解決のために、積極的な努力を傾けてまいる所存であります。

ご承知のとおり、第二期総合開発計画は、最終年次を明年に控えていよいよ仕上げの重要な時期にはいるのであります。私はこの計画を一層強力に推進するとともに、第三期総合開発計画は、本道の発展と道民生活の向上をめざし本道がわが国の躍進に偉大な役割を果たし得るよう、新鮮で雄大な構想のもとに、その策定を進めたいと存じます。北海道二世紀の第一年という意義深い年頭にあたり過去百年の歴史の支柱が、不屈の開拓者精神であったことに思いをいたし偉大な北海道の建設に向って、全道民が力強い第一歩をふみ出されんことを心から念願するものであります。

道民の皆さまのご健勝とご精進をお祈りして年頭のごあいさついたします。

冬山の遭難

事故を防ごう

本格的な冬山シーズンとなりました。

近郊の山々は、余暇を楽しむ山の愛好者でぎわっています。

しかし登山人口の増加に伴い遭難事故も年々多くなっており、渡島地方でも昨年十一月横津岳で遭難事故が発生し、尊い人命が二人まで失われたことはまだ記憶に新しいところです。

このため、地元町村をはじめ山岳会その他関係機関が冬山遭難事故の防止に努力しておりますが、やはり冬山に登るみなさんが十分注意しなければ、これを防ぐことはできません。

これから冬山登山やスキーリングの方は次のことをよく守って事故のない楽しいシーズンを過したいものです。

一、自分の体力と余暇に応じた山とコースを選びましょう。

二、細心の準備と確実な計画を立てましょう。

三、単独行動は避けグループ登山は規律を守りましょう。

四、雨具やセーター、予備食は必ず用意しましょう。

五、登山計画書は必ず事前に近くの警察署、駐在所、駅などに提出し、また家人や勤め先にも計画内容を知らせましょ

六、絶えず気象状況に注意し、見透しのきくうちに方角、目的位置などを地図上に記しておきましょう。

七、山のエチケットを守りましょう。

八、危険な関係

山の危険、それは登山者によつてつくり出される山との関係であります。山には静と動の両面があることはご承知のとおりです。

九、山岳気象の激しい変化により静かな山岳が極めて短時間のうちに荒れ狂う動の山岳に変ります。

十、過去の大きな遭難は、多かれ少なかれ必ずこのことが原因となることがあります。

十一、あらゆる事態を予想しての登山計画こそ最も大切です。

十二、さてあなたの計画は?

* * *

お茶の間メモ

疲れないテレビの見方

お正月のんびりとテレビなどを見て楽しもうという方のために、疲れないテレビの見方をお教えします。テレビからの距離は白黒テレビでは、画面の高さの八倍が一番見易いといわれています。

普通家庭にある十六型、十九型のテレビでは二・五・二・七メートル離れることになります。カラーテレビはいくらか画面の暗いこともあります。七倍位が良いと

にかかせない神鷄などとなっています。

この番組では新潟・高知・伊勢などの各地に取材し、これらの日本鷄の生態を、それぞれ環境とともに紹介しました。

鷄は古来、祭事や民俗行事にしばしば登場し、日本人に親しまれてきましたが、明治以来、卵が肉を食べるための西洋種の実用鷄が多くなりました。一方日本鷄の数はきわめて少くなり、なき声や姿を鑑賞するために飼われているものがほとんどとなりました。

種類は全部で十七種類、いずれも天然記念物に指定されて愛好家の間で保存がはかられています。エトにちなんでとりの鳴き声とともに、新しい年をお祝い下さい。

年頭にあたつて

渡島支厅長 川尻外治

みなさま明けましておめでとうございます。
北海道二世紀の新春をみなさまとともに祝ひでございますことはこのうえないよろこびであります。

昨年は北海道百年記念の諸行事また十勝沖地震、八月の集中豪雨と多事多忙そして多難な年でした。
この間みなさまの絶大なご理解ご協力と又数多く寄せられました災害へのご厚情に対しまして衷心より御申上げる次第であります。



幸い災害地もみなさまがたのご尽力によりまして復旧の明るい希望の中に新春を迎えることが出来ましたことはご同慶にたえません。
さて災害を別にしますと引き続き農作に恵まれ、他産業も順調な推移をみましたことは、何よりもありがたいことと感謝いたしております。
ご承知のとおり本年は未来に飛躍する第二世紀の初年であり、そしてまた北海道第二期総合開発計画の仕上げをしなければならない年にもあたりますが、南北海道の開発も過去新たにし、当管内でもっともおくれております道路問題を重点として取組むは勿論、農業振興のための土地改良事業、草地造成事業、漁業振興のための漁港整備、増殖事業、更には災害防止上から治山事業、海岸保全事業等々地域開発のための諸事業を強力に推進してまいり所存であります。過去百年先人が血のにじむような努力によって今日ある北海道を築いたごとく今後の開発にも幾多の障害が待つていてと考えます。

しかしそれにめげず先人の足跡を受継ぎ住みよい豊かな郷土、南北海道建設に努力いたす所存であります。

みなさまがたにおかれましても未来への夢をもつて質実ともに豊かな郷土建設にご精進くださいますよう切望してやみません。

輝かしい昭和四十四年の年頭にあたつてみなさまのご健勝とご精進を心からお祈りしてございさつといたします。

鹿部村消防団出初式終る

鹿部村消防団の出初式が一月二日午後一時より鹿部小学校グランドで行なわれました。

出初式では四十四年の定例表彰授彰式が行なわれました。

(以下定例表彰者)

北海道消防協会渡島地方支部
(功績章)
團長 盛田元一

北海道消防協会会长表彰
(永年勤続表彰)
副團長 木村徳衛
分團長 畑中謙三郎
班長 盛田勇次郎

十年級 団員 塩越勝一
佐藤貞義
盛田鉄次

北海道消防協会会长表彰
(永年勤続表彰)
副團長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級 团員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

三十年級
教育委員会委員 (43・12・23付)
監査委員 (43・12・24付)
鹿部村選舉管理委員会委員
(43・12・26付)

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

十年級
團員 沢田実
高野清一
塩越勝一
立部誠一

二十年級
副分團長 古城保雄
班長 盛田憲哉
大清水元吉
阿部金之助

三十年級
部長 飯田又吉
班長 盛田勇次郎

保険金請求に必要な書類

区分	必要な書類	仮渡金支払請求書	損害賠償額支払請求書	交通事故証明書	医師の診断書	死死体検査書	戸籍謄本・除籍謄本	印鑑証	委任状 請受をする 求領委 權權任合	治領療費 関係明細書	休業補償請求資料	事故発生状況報告書
		<small>委託付 任明する 者を必ず 印と 鑑添</small>										
書類を発行するところ	損害保険会社	警察	取扱い師	市町村役場	他の請求権者	病院など	雇主など					
死	損害賠償額	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
亡	仮渡金	○	○	○	○	○	○	○				○
傷	損害賠償額	○	○	○			○	○	○	○	○	○
害	仮渡金	○	○	○			○	○				○

注意 1. 通常○印と○印のものが必要ですが、○のものそえそろえは保険会社は、請求を受付けます。
 2. 仮渡金を請求するときに提出した書類は、あとで損害賠償額を請求するときには、提出する必要がありません。
 3. 請求の時効は、事故発生後2年です。
 4. 死亡事故による請求は、請求権者のうちから1人の代表者を定めておこないます。
 この場合、他の請求権者全員の委任状と印鑑証明が必要です。
 5. 上記以外の書類が必要なときは、査定事務所から連絡します。

※ 請求手続きに必要な用紙は、保険会社に用意してあります。

和解調書作成手数料

示談金額	手数料
10万円まで	20円
10万円をこえるもの	30円
ほかに代書料1枚400円位と郵便料が必要です。	

裁判費用

請求金額	手数料(印紙代)
10万円まで	1万円につき100円
10万円をこえ 50万円まで	1万円につき 70円
50万円をこえるもの	1万円につき 50円

調停申し立て手数料

請求金額	手数料
50万円まで	2,200円
100万円まで	3,200円
300万円まで	7,200円
500万円まで	12,000円
ほかに関係者の呼出郵送料が必要です。	

渡島支厅よりお知らせ

「公給領収証」は忘れずに受取りましょう。
「料理飲食等消費税」という税金のことをご存じですか。
「料理店やカフェー飲食店旅館などで飲食や宿泊をしたときにかかる税金」のことです。この税は飲食などの料金に対し10%の割合で課税されます。

この税は飲食店や宿泊の場合は一人一回三千円以下は10%三千円をこえると15%（宿泊の場合は10%）の割合で課税されます。
しかし飲食店喫茶店食堂などで六百円以下のものや宿泊の場合で千二百円以下のものは家庭の延長とみなされてからないとされています。
税金の徴収方法は道が直接お客様から徴収することができないことで店の経営者が道にかわって税

金を預かり一ヶ月分をまとめて道に申告して納める方法をとっています。そこで「店の経営者がお客様から税金を預かったこと」を明らかにするために道で印刷した用紙を使って領収証を発行しなければならないことになってします。この領収証のことを「公給領収証」とい「税」のスカシが入っています。

したがつて皆さん方が料理店や旅館などで飲食や宿泊をしたときには正しく税金を納めたしるとして「公給領収証」を必ず受取るようにしてください。
もしも店の方で発行しないときに郵便局又は税務出張所に連絡してください。

郵便局だより

「一年の計は元旦にあり」。いいふるされることはですが、新年を迎える年こそはこれも実現しようとお考のことと思ひます。
新春一我が家の貯蓄計画にみ出されるのにもっとも良い時期です。
昨年十月発表の貯蓄増強中央委員会の貯蓄に関する世論調査によれば、みなさんが年収の四倍の貯蓄をためたいとお考えです。「年収の四倍」ちょっと多いとお感じかもわかりませんが、貯蓄はコツコツとしたものの集積、綿密な計画と

郵便局では、定額貯金で、収入に合わせて、無理なく百万円がたまる「百万円づくりプラン七つのコース」を用意して財産づくりのお手伝いをしています。
計画も新たに、今年こそのご決意で、長期計画貯蓄にスタートします。
郵便局には、このほか「通常貯金」があります。

④ 通常貯金・（出し入れ自由の貯金です。）財布がわりに気軽なにご利用ください。しかもこの種の貯金では最高の利子がつきます。

お子さまのお年玉貯金にピタリです
利率 年三分六厘

（鹿部郵便局）

交通事故

被害者のために

(その四)

示談をするときの注意

1. 示談は、円満に、はやく解決することにこしたことはありません。しかし、お金に困るからなどの理由で急いで解決しようとすると相手につけこまれることがあります。
2. このようなときは、保険金の仮渡しや内払いの方法もありますので、当座の費用についての話し合いにとどめておき、治療が完全に終ってから、あらためてなつとくのいく解決をすることが大切です。
3. 相手方のことは少しも考えず、こちらの主張をあくまで通そうとするようでは、まとまる話もこじれてしまうばかりですから、お互によく理解しあって話し合うことが大切です。
4. 示談ができたら、あとからの争いを防ぐために示談書を作ります。この場合、賠償金の支払いがあとになったり、後日もめごとが起きそうに思われるときは、簡易裁判所に即決和解を申し立て、裁判所の判決と同じ効力をもたせておくことをおすすめします。

示談がまとまらないとき

加害者に誠意がなく、示談に応じないとき、また示談の条件が折合せず、成立しないときには、調停裁判の申し立てをすることになりますが、このようなときは、前もって交通事故相談などで、よく相談してから申し立てするようおすすめします。

◎ 和解・調停

加害者と被害者の両者で、賠償額等について話し合いで解決できない場合に、簡易裁判所に和解調停の申し立てをしますと、裁判官、調停委員を混じえて、話し合い、納得づくで解決する方法です。

裁判とは違いますが、判決と同じ効力をもっていますから、これを守らないと差押えなどの強制執行もできます。

◎ 裁判

加害者と被害者の話し合いや、簡易裁判所の調停でも損害額等の解決ができない場合、弁護士を通じて、民事訴訟を起し裁判によって解決することができます。

新成人の皆さんへ

鹿部村青少年指導員

土田辰男

社会教育だより

新生活運動の芽生え

成人となられました皆さんに、

に与えられた永遠の課題です。

住みよい豊

豊かな生活を

NHKの後援に依り家計簿体験談の募集をすることになりました。



「わが家の家計簿」

体验谈募集

この度貯蓄増強中央委員会並に
都道府県貯蓄推進委員会の主催し

- 2 新造船祝の改善
3 お嫁さんの持参用具の考え方
4 廃止すべき儀礼事項
5 家計簿の記入について
6 生活計画の樹て方と、今後の運動のすすめ方について

- ④ NHKの後援に依り家計簿体験談の募集をすることになりました。

皆さんもそれぞれ記帳の体験やいろいろ工夫した生活設計に実際に役立つような記帳方法もあると思います。又新たに記帳される方にも参考になることが沢山あると思います。今回も二月末日まで募集期間となつておりますので多數応募を希望します。

◎内 容

家計簿をつけ始めた動機、苦心談家計簿をつける喜びや家族の協力家計簿で発見したムリやムダ家計簿に依つて予算や消費内容変化。最近の物価高に対する乗り切り体験。家計簿を基にしたこれからの生活設計。グループによる家計簿記帳勉強会り

◎原 稿

①四百字詰原稿用紙五枚以内で本文以外に記帳内容のわかる表など

②原稿には応募者住所、氏名、職業、年令並に同一家計でくらす家族名

③封筒の表面に家計簿体験談と記入

④心事高まる反応下さい。

昭和四十四年六月中旬本人に直接通知あるほか、NHKで放送発表します。